

地域課題① 将来を見据えた持続可能な組織づくり

★具体的取組の例

- 広域コミュニティ組織との連携による事業内容の見直し
- 将来を見据えた会費のあり方の検討と、共同作業の見直し
- 近隣する単位自治組織との交流と協力体制の構築
- 新しい生活様式に対応し、SNSやオンライン化の導入の検討

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	27	46%
取り組まなかった	31	52%
無回答	1	2%

具体的取組とその効果など

- ・ 将来を見据えた会費のあり方を検討し、4年度から減額することとした。
- ・ 役員同士の連絡にグループLINEを使用するようにしたら負荷が軽減された。
- ・ 公民館等の補修等が将来必要になった時に備え、積立基金を設立し決議された。
- ・ 隣接する集落との組織化（消防団）をはかった。
- ・ 役員の任期を2年から3年に延長した。
- ・ 役員がスムーズに毎年変わることができる体制を検討した。
- ・ 集落内の公園整備やゴミステーションの塗装を行った。
- ・ 集落内の共同作業の際、高齢者は免除することにした。
- ・ 集落委員会で現状把握するとともに、今後10年間の人口推移を想定の上で集落役員配置や任期の見直しを検討した。併せて、集落費の見直しを行い、令和4年度より減額した。集落役員相互の情報伝達は、面談の重要性も考慮しつつも、SNSの一斉配信を活用することでスピードアップを図っている。
- ・ 全世帯が区長などの役員を経験するよう自治会編成を行っている。
- ・ コロナ禍で制限のある中での組織づくりであったが、高齢化が進む中、役員の兼務等で将来を見据えた組織づくりができた。高齢化の中、役員をできる人材に限られ、選出に苦勞するようになった。
- ・ 活動センターとの連携による事業への参加と防災組織づくりを実施した。
- ・ 公民館の改築により、集落住民、集落各組織が集まりやすい環境づくりができた。
- ・ 世帯数が5年前から5件減少した。市からの交付金と集落会費を合わせると約9万円の減少となる。支出の大半が寄付金、賛助金等で、実際事業に使えるのは数万円だが、ここ2年はコロナで賛助金額も減少し、辛うじて赤字にならなかった。一部、負担金を見直し、女性1,500円を男性と同額の3,000円に改定した。
- ・ 効率的な組織再編のため隣組の再編に取組み、12組から11組とした。

地域課題② 多様な人材の活用と役員等の負担軽減

★具体的取組の例

- 役員負担軽減につながる効果的な組織体制の見直し
- 単位自治組織が抱える課題・将来像を共有する場づくり
- 女性や若者を登用し、幅広い年齢層が参加しやすい集落運営の仕組みづくり

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	22	37%
取り組まなかった	36	61%
無回答	1	2%

具体的取組とその効果など

- ・各組織との協力体制を作っている。
- ・集落内の各団体長会議を年2回開催し、集落の課題、将来像を共有した。
- ・幅広い年齢層が参加しやすいように役員4役（区長、区長代理、会計、監事）を原則的に2年で順送りするようにし、組織の活性化を図った。
- ・一人暮らし高齢者は集落内の連絡係をしなくてもよいことにした。
- ・若い年代を登用し将来的な人材の確保を図った。
- ・女性を登用し幅広い年代が参加しやすい事業運営の仕組みづくりを行った。
- ・自治組織に若い人（60歳）を早く入れるよう努力した。
- ・一度役員になると最低16年間も拘束されてしまうため誰もが役員になりたがらない。役員の負担軽減のため、今年は集落で行っている敬老会を老人クラブに移管し、食事会をしてもらった。
- ・役員の負担軽減につながるよう、保健推進員や体育主任などの役員は30～40代の男女を選任することで老若男女問わず集落に関わる運営ができた。
- ・役員間の連絡にSNSやSMSを活用した。また、集落費の支払い日を集落のイベントの機会にするようにした。
- ・従来の男性主体の役員体制を打破するために女性にも声をかけたが賛同を得ることができなかった。一方区長は充て職等多くの重責を抱えているので、区長代理制度を設けて区長の負担軽減を図った。結果区長の負担軽減に効果があった。
- ・会計の業務負担軽減のため、JA口座の他、近くの金融機関に口座を新設した。またパソコンで集計等をするため、会計補佐を新設し会計の負担軽減を図った。

地域課題③ 多世代が交流し、あいさつを交わし合える地域づくり

★具体的取組の例

- 地域の特性を活かした多世代参加・交流型事業の開催
- 若者が事業を通じて企画・運営の達成感や充実感を感じられる仕掛けづくり
- 笑顔であいさつを交わし気軽に話し合える雰囲気や場づくり
- 子どもが地域の大人とつながり、体験を通して地域の魅力を知ることによるふるさと大好きな子どもの育成

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	15	25%
取り組まなかった	43	73%
無回答	1	2%

具体的取組とその効果など

- ・子供会を中心に女性部・老人クラブで花壇づくりをし、交流を図っている。
- ・夏祭りで子供たちが神輿引きをすることで地域の大人とつながるようになった。
- ・集落行事に全員が参加できる行事を作る。
- ・小さい子供から高齢者まで、住民が参加する清掃美化運動と花の植栽事業などを実施することで、幅広い年代が交流することができた。
- ・小中学生が下校時に積極的にあいさつを交わし児童生徒からもあいさつの声が出ようになってきた。
- ・納涼大会を開催し、子供から大人まで楽しめるイベントを開催した。
- ・ゴミ収集や今年度から取り組んだ花いっぱい活動を通じ、笑顔であいさつを交わし合える場づくりをコロナ禍であったが感染に気を付け取り組んだ。

- ・小学生1人のため、子供会でやってきた事業ができなくなっている。今後は4人ぐらい増える予定である。
- ・従来から活動に多世代の人が参加してくれているので、特に取り組む必要がなかった。
- ・地域振興と共に多世代が一堂に会し交流する機会として「ホタル祭り」を計画していたが、コロナ禍により中止となり実施に至らなかった。

その他

- ・広域コミュニティ組織に依存している。

地域課題④ お互いを見守り支え合う安全で安心な地域づくり

★具体的取組の例

- 自主防災組織の機能点検及び広域コミュニティ組織と連携した事業体制の構築
- 有事に備えた住民情報の把握と見守り・支え合い体制の仕組みづくり
- 他団体と連携した高齢者等交流・支援活動の実施
- 空き家情報の把握と市への情報提供

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	21	35%
取り組まなかった	37	63%
無回答	1	2%

具体的取組とその効果など

- ・集落内の空き家の道端の草刈を行った。
- ・世帯員名簿を作成したら、一人暮らし世帯が浮き彫りになった。
- ・各団体と連携した高齢者等の交流支援を行った。
- ・各個人の家、土地の環境整備について周囲の人に迷惑をかけないようにみんなで取り組んだ。
- ・家屋情報の把握と市への情報提供を行った。
- ・●●集落防災マニュアルを作成した。
- ・集落の消防団の協力のもと、各家庭を訪問し火災予防に努めた。コロナの影響で地区防災訓練は中止となった。
- ・組長中心に（8組作成）隣組コミュニティの組織強化を図った。
- ・危険箇所の点検を行った。
- ・自主防災組織は機能しているし、活発な意見交換も行われている。有事の際の住民情報把握や見守り・支え合いの体制づくりもできている。空き家情報把握と市への情報提供も行われている。
- ・集落内農道のアスファルト化と安全対策看板を設置した。
- ・自主防災組織の情報伝達訓練で、初めてメールを活用し活動センターへ送信する訓練を行った。
- ・集落内の避難場所の確認をした。
- ・空き家を把握して安全確保を心掛けている。

その他

- ・老人クラブやPTAを中心に集落内の交流ができているので、特に新たな取り組みはなかった。
- ・防災組織を活用し実際に活動することが必要になると思うが、生活の多様性等で活動することは難しい。

その他／ 地域で課題になっていることなど

- ・コロナの影響で組織活動や十分な話し合いができない。少なくなった。
- ・高齢者の増加による移動、買い物の手段の検討が必要である。
- ・大雨の時に集落内の河川が増水し危険なため、川の中の雑木の撤去。
- ・自治会役員の成り手の育成。
- ・神社の氏子の減少。消防団員の後継者がいない。
- ・空き家、独居高齢世帯の増加。
- ・防犯、防災の意識改革。
- ・ゴミ集積所の管理に苦慮している（他集落からの不法投棄多く困惑）。
- ・冬季降雪時、除雪が遅く集落内で苦情が出ている。
- ・後継者のいない世帯が複数存在していることや、結果として今後も空き家件数が増加する見込みであること。
- ・後継者が新世帯を都市部に構えるケースが多く、結果として高齢者世帯、独居世帯を解消できない。
- ・来年度小学生がいなくなり、小学校PTA会費の集金方法の対応についてどうするか。
- ・集落排水路に産業廃棄物と思われる複数の物品が放置されており、大雨時排水能力低下している。
- ・高齢化が進み20代、30代がほとんどいない。R4以降は小学生もいなくなる中、集落組織を維持していくことが難しくなっている。集落行事の参加時も高齢化が進み作業量の軽減が課題になっていくように思われる。
- ・高齢化、人口減少が進み、様々な組織運営が難しくなりつつあり、より大きなコミュニティへの依存度を上げなければならないこと。
- ・子どもの人数減少で、子供会活動が少なく小規模である。
- ・役員のなり手がおらず苦慮している（特に区長、会計）。
- ・防火水槽を設置する場所をどこにするか。
- ・集落内の放置された小屋全部と空き家の一部が今冬の大雪で崩壊した。小屋については持ち主が片付けるとのことだったが、空き家の方は持ち主が関東に住んでおり、行政から連絡を取ってもらったが今のところまだ連絡がない。このままだとトタン板が風で近所に飛ばされる被害が出るのが心配である。どうにかならないものだろうか。
- ・空き家における雪害や動物等による被害

その他／ 具体的に考えている事業や取組んでみたい事業など

- ・公民館の建替え、改築、維持を検討。
- ・集落の役員に、老人クラブ、消防、PTA、婦人部から一人ずつ任期1年で入ってもらい、現行の役員を減らし任期を16年から8年ぐらいに半減したいと思う。
- ・住民同士のコミュニケーションの場を確立したい。世帯構成が若く子供中心で、集まる機会を作るのが困難な状況である。
- ・集落のサロン室を活用して、プロジェクターを使ったDVD映画の上映会を計画してみたい。機材の貸出しや調達について、鶴岡市でアドバイスがあれば伺いたい。上映内容については、集落住民のリクエストをアンケートし、月に1回程度の上映会を試みる。DVD映画上映会をきっかけに住民同士があいさつを交わせれば良しとするし、一つの話で住民同士が会話できればなお良し。低料金のワンドリンクサービスも同時に行いたい。お菓子の持ち込みは自由とする。
- ・松ヶ岡開墾150年記念事業。
- ・自主防災訓練の実施。
- ・近くに自転車道があることから子供会と協賛し自転車で行く羽黒山石段登山。

その他／ 地域コミュニティに関するご意見など

- ・屋内にいと防災行政無線が聞こえないので対策を検討してほしい。
- ・集落の人口減少の中での組織の役割はどうすればよいか。
- ・高齢化、少子化で行事があっても人が集まらなくなっている。
- ・運動会実施の場合、時間、内容を考慮願いたい（短縮、集落対応なしなど）。
- ・他地域の良いところ、優れた点など、情報収集したら必ずフィードバックしてほしい。
- ・公民館を地域活動の拠点として活動しているが、水道を使用しない月も一定料金を支払っている。利用しない月は水道使用料金を0円としていただきたい。
- ・コロナ禍で活動が制限される中、このままでは地域コミュニティが知らず知らずにしぼんでいき、それが当たり前の地域とならないよう先を見据えて集落も活動していかななくてはならない。
- ・単位自治組織 69 集落と旧町村と比較しても非常に多く、本来のコミュニティを運営するのに課題も多くある中で健全な組織体制を構築する意味でも集落の再編成が必要と思う。但し行政主体（トップダウン）の発想ではなく、各集落からの盛り上がりが絶対的に必要である。
- ・活動センターは情報を毎月発信してくれるし、地区を活性化させるために努力していると思う。区長会も毎月開催して、コミュニケーションがよくとられていると思う。
- ・コロナ禍で活動を推進することは不可だった。

地域課題① 身近な地域の居場所づくり

★具体的取組の例

- 広域コミュニティ活動についての研修会や情報交換
- 広域コミュニティ活動の地域内外への発信
- 地域資源を活かしたコミュニティビジネスの取組に向けた検討
- 適正な受益者負担の検討

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	4	100%
取り組まなかった	0	0%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・毎週金曜日の百歳体操、女性セミナーでの編み物教室等、小学生対象の料理教室を行った。
- ・地域住民が誰でも参加できるイベントを通して、老若男女世代を超えた親睦と交流の場を提供した。
- ・広域コミュニティ活動について地域内外へ発信した。
- ・コロナ禍でなかなか集まりができない環境だったが、外部団体と連携し高齢者のサロンを行った。また、子供たちの遊び場として平日と日曜の一部をコミセン開放し、コロナ禍でのストレス発散の場を提供した。

地域課題② 単位自治組織と連携した事業体制と新たな人材育成

★具体的取組の例

- 広域コミュニティ組織による単位自治組織への支援
- 地域の現状と目指すまちの姿を共有し、地区住民の声を反映した「地域ビジョン」の策定
- 地域活動に参加する契機の創出
- 地域コミュニティに関わる団体・組織との交流
- 新たなリーダー輩出につながる、サブリーダーからの人材育成と達成感を感じる仕掛けづくり

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	2	50%
取り組まなかった	2	50%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・地域住民の声を反映した集落を超えて支え合う住民主体の地域コミュニティの在り方とその形成に向けての条件整備や方向性を示した「地域ビジョン」を策定した。

その他

- ・運動会、冬季レク等の大規模なイベントが開催できず、また各集落との接触機会も減ったため、地域との関係が多少希薄になった。

地域課題③ 郷土愛を育む学びの場と地域の魅力を発信できる仕組みづくり

★具体的取組の例

- 子どもたちの郷土愛を育む社会教育活動の実践
- 小学校等と連携した協働活動の推進
- 若者に魅力ある子育てしやすい環境づくり
- 地域外から人材を呼び込み、地域力の維持・強化と地域の魅力の再発見と発信
- 新しい生活様式に対応し、SNSやオンライン化の導入を検討

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	3	75%
取り組まなかった	1	25%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・恒例の羽黒山朝山登山は天候により中止となったが、ホテル観賞会や地区内の公園を利用してツリーイング体験会を行った。
- ・農作業を通じた世代間交流事業を行った。
- ・地区の子供たちやサークル団体の成果を発表する場を提供した。
- ・広報(紙)の他に Facebook を活用して地区の魅力や情報を発信した。

地域課題④ 自主防災組織と連携した防災の体制づくり

★具体的取組の例

- 情報伝達、情報収集方法の構築
- 単位自治組織の自主防災会への働きかけや支援
- 地域の実情に即した避難訓練や防災研修等の実施

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	3	75%
取り組まなかった	1	25%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・11月に羽黒地域防災訓練の会場となり、各集落区長から参加してもらった。
- ・地区を5ブロックに分け、毎年順番で防災訓練を実施している。
- ・地区住民を対象に避難訓練や防災研修会を実施した。
- ・各組織と連携を図りながら情報伝達、情報収集の方法の構築に努めた。
- ・防災思想の高揚と地域の実情に即した各種訓練や講演会等を実施した。

その他

- ・総合的な防災組織がないこともあり、連携した取組みは行っていない。

地域課題⑤ 安心して暮らし続けられるコミュニティづくり

★具体的取組の例

- 高齢者や要支援者の見守り支援体制の構築
- 各種団体や組織と連携した防犯体制の取組
- 不良空き家化の予防啓発
- 地域共生社会の実現に向けた「地域支え合いプラン」の推進

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	4	100%
取り組まなかった	0	0%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・鳥獣被害対策として講習会を2回行った。
- ・高齢者限定で段ボールや新聞等の回収を行った。
- ・地域住民を対象とした事業の中で、全国規模で起こっている詐欺被害の情報等を提供し、心構え・予防策を啓発した。
- ・各種団体や組織と連携し高齢者や一人暮らしの見守り支援体制の構築に努めた。
- ・広報紙に、普段目にしない身近な防災知識を2年余り連載し、災害への備えを各戸に周知している。特に女性に関連した項目を多く掲載し、男性にも知ってもらうようにしている。

その他／ 地域で課題になっていることなど

- ・大雪対策について
- ・少子高齢化に伴う子育て支援や、一人暮らしの方への支援、空き家問題について。
- ・買い物支援の取り組みを始めたが、住民の反応が全くなく、誰も困っていないようである。やる側と受ける側の考えも全く違うようで、一方的な進め方ではよい取り組みでも流れてしまうようだ。受け手側からは、興味が湧くような新たな方法が求められている。
- ・地域的な課題である鳥獣被害対策に積極的に取り組んでおり、次年度はさらに拡大したいと考えている。

その他／ 具体的に考えている事業や取り組んでみたい事業など

- ・地域通貨の導入。景観整備事業。
- ・活動センターの活動等をSNSで発信していきたい。
- ・様々な事業やイベントが、コロナ禍で規模縮小している中、地域と一体感を取り戻す柱になっている各種の大きなイベントをコロナ前のように開催していきたい。

その他／ 地域コミュニティに関するご意見など

- ・コロナ禍になり趣味のサークル活動やお年寄りの通いの場が減少した。また飲み会等も無くなり地域の活性化が減少したと思う。
- ・現役世代が参加、参画できる内容の事業が少なく、すべての事業が高齢者子どもメインである。また、現役世代はコロナ禍で行動が制限され、少しずつではあるが地域コミュニティが希薄になってきているように感じる。コロナ収束後、再び地域に活気が戻ることを祈ります。